名古屋女子大学　紀要　54（人・社）191～202　2008
〈資料〉

紙芝居制作からユニバーサルデザインへの発展
―保育者の想像力を高める教材研究を目指して―

松田 ほなみ

Development from picture story show production to universal design
It aims at the teaching material research that improves child care person's imagination

Honami MATSUDA

Ⅰ、研究の目的

幼稚園教育要領には幼児期に絵本や物語に触れるという経験の教育的な価値について、積極的に触れている部分がある。幼児は絵本や紙芝居といった媒体に仲裁されてのおはなしの世界にいざなわれ、その世界で遊ぶことを楽しむ中で想像力を発達させていくことは、よく言われていることである。[1)]

そのように、絵本、紙芝居は、保育活動の教材としてよく使われる。また保育士、幼稚園教諭を目指す学生の教材制作として授業で制作指導を行うことも多い。

絵本と紙芝居、どちらも絵と言葉の組み合わせによって、構成されている。絵本は、世界中共通であり、絵本を家庭で見る場合は、子どもが手にとって絵をよく見、字が読めなければお母さんに読んでもらう。子どもは絵を見ながらことばを聞き、理解していく。分からないところはお母さんに聞くことも出来る。絵本はこうした母子一体か、あるいは子ども一人で見るのがふつうである。紙芝居は、わが国独自の様式をもつ文化財であり、集団で見ることを前提としてつくられる。話だけで聞くのとはちがって、幼児にもわかりやすく、楽しく、様々な知識や、お話の喜びを得ることが出来る。[2)]

紙芝居は、そこに居合わせた人々が気持ちを共感できる表現媒体である。すばらしい表現のものであれば皆の気持ちを導くことが出来、いつまでも心に残るものである。

そのような紙芝居の特性を生かし、教材として制作することにより、保育士を目指す学生たちにとって、子どもへの配慮はもとより、学生たち自身の想像力を引き出すことが出来るのではないかと考える。それは、今まで短期大学部保育学科「表現２授業」で２年間にわたり紙芝居制作の指導をおこなってきたことからも実感できる。そこで紙芝居の教材としての可能性に多くのものがあることを感じた。

私は、長年絵画制作（洋画）を自分の研究課題とし、制作発表してきた。イメージを絵画化することは、長年のテーマである。そして絵画化するために、テーマを選ぶことは大変重要なことで、何を描くかが軸になる。紙芝居において、お話や物語を絵画化することは、当然のことで、しかも言葉が加わることによって、幼児をはじめ万人に分かりやすく、伝えたいことを伝えることが出来る。

難しいテーマもやさしく、伝えることが出来、その創造の段階で創意工夫することにより、制作者も成長が出来ると考える。

そのテーマは、出来る限り世の中に役に立つと思われるテーマを選び、近い将来、保育士として子どもたちのリーダーになる自覚を促すことを目的とする。

その取り組みの１つとしてユニバーサルデザインへの発展を考察する。

ユニバーサルデザインは、万人に優しいデザインであると言われる。万人とは、障害を持つ人、持たない人、子ども、お年寄り、様々な状況条件におかれる人全ての人をさす。1974年にロン・メイスによって提唱された言葉であり、最近テレビ、コマーシャル等でよく耳にする。

ユニバーサルデザインは、障害のある人もない人も、高齢の人も若い人も、男も女も、日本人も外国人もみな等しく住みやすい快適な社会をつくることである。[3] このようなすばらしい考えをベースにおいたデザインであるにかかわらず、根本久夫氏が『ユニバーサルデザインの考え方』の冒頭に「混乱した概念」として書いているように、あまりにも広範囲で、いまひとつ分かりづらいのが現状である。

保育学科の学生にとってもユニバーサルデザインについて知ることは､有意義なことである。子どもたちは、弱者の立場になる。ユニバーサルデザインは、子どもにとっても優しいデザインである。またこれからの将来を担っていく子どもたちであるので、皆住みやすく快適な社会をめざすデザインを知ることは有意義である。またその子どもたちを導いて行くことになる学生が、子ども達にとって、役に立つであろうことを考えることは、彼女たちにとってユニバーサルデザインを深く知ることができるきっかけになると考える。

紙芝居は、複数の人が一度に見る。多くの人に伝えるには、しっかりとした構想が必要になる。しかも園児たちに紹介するには、やさしく、分かりやすくしなければならない。
やさしいデザインといわれるユニバーサルデザイン、その思想をやさしく伝えるために、紙芝居は、以外な力を発揮することができるのではないかと期待を持った。

Ⅱ、研究の方法

１、授業「表現」における紙芝居制作

平成18年度保育学科１年生後期の表現授業では、紙芝居の主に描画表現技法に取り組んだ。

⑴授業の手順

①　ビデオを見る（NHK未来の教室エリック・カール）
②　ビデオと同じ技法で色紙を作る。
③　スポンジアート
④　３原色で絵画をつくる。
⑤　中庭でデカルコマニー
⑥　マーブリング
⑦　葉っぱを拾ってスタンピング
⑧　紙芝居の構想を練る。
⑨　話の割り振りを考える
⑩　紙芝居の制作
⑪　発表

全員が１人１つの紙芝居を制作することを目的に､NHK未来の教室で放映されたエリック・カールの絵本制作を参考に、コラージュ（貼り絵）技法等を取り入れ制作した。

沢山の技法があるが、コラージュ（貼り絵）技法を取り入れたのは、最初に学生に描くことが好きか苦手か聞いたところ、描くのが苦手な学生が多く、描くことが苦手な人でも作品を作ることが出来るということを教えたかったことと、コラージュの材料を作る過程で、いろいろな技法を経験することが出来、作品を作る楽しさを知って欲しいと考えたからである。

⑵多様な表現への挑戦

マーブリングや、スポンジアート、フロッタージュ、スタンピング、引っかき技法等の技法を経験するということで実際に描いてもらった。

①スポンジアート

ロールの画用紙（ジャンボロール）白　幅900㎜×長さ10ｍのものを約３ｍにカットして使用。スポンジローラー使を使い自由に彩色させた。絵の具は、ニューサクラカラー200mlポリチューブ入り12色セット使用。

最初おそるおそる色を塗っていたが、殆どの学生がしばらくすると大胆になった。スポンジから延長して、手でスタンピングをはじめる者や、靴をぬいで足跡をつける学生もあらわれた。皆子どもに帰ったように生き生きとしていた。ジャクソンポロックの話をしたら、絵の具の容器からそのまま撒く学生もあらわれ、描画表現が激しくなっていった。

しかし、この表現は、ピークを過ぎると美しさも通り超えてしまう。幼児に経験させるには、気の済むまでやらせれば良いと思うが、作品の材料としては、良いところでとめることが必要であると思い、描画の終了を指示した。

時間と材料に余裕があればやるだけやったものと、きれいだなと思うところでとめたもの等何回か経験すればこの技法に対してもっと良い結果が得られると思う。しかし、時間の制約とコラージュの材料として切り取る目的であったため、各自一回のみの体験で終わった。

②フロッタージュ

クレヨン、クレパス、パステル、上質紙、わら半紙使用。

この手法に夢中になった学生は学校中クレヨンと画用紙を持って擦りまわっていた。
クレヨン、クレパス、パステル３種類用意したのは、材料の違いによって、どう変わるか実際に体験してもらうため。紙も２種類用意したが、色付きの紙など使っても良いと説明した。

③マーブリング

彩液セット（赤、橙、黄、青、緑、黒）、彩色筆、テレピン使用。紙芝居を制作する段階になってさらにやりたいと申し出る学生も多くいた。

⑶紙芝居の制作

紙芝居のお話は自分で考えてもいいし、あるお話を使っても良いと自由にした。

実はその前の年、表現（言葉）担当、平井孔仁子先生にご指導頂き、先生の言葉の授業で話しを作り、それを紙芝居にするという方法で授業をおこなった。しかし、時間の兼ね合いがうまくいかなかったのか、私も始めての表現授業で段取りがうまくいかなかったのか、学生から難しいという意見を多く聞いた。平井先生には、大変お世話になり、もっと進めて行きたかったのであるが、２度目である18年度は、学生の意見を取り上げ、タイアップをやめ、描画表現技法に的を絞り、お話は自分の創作でも人の作ったものでもよく、紙芝居にしようとするイメージの沸くものでよいとした。平井先生のご指導の、表現（言葉）の授業でつくった話を紙芝居にした学生も半数ぐらいいたと思う。

今までにあるお話は、使ってもいいが、描かれているものを丸写しにしたりしてはいけないということにした。

お話を割り振りし、場面ごとのエスキース（下書き）にし、八つ切り画用紙に仕上げていった。本来八つ切り画用紙は、正式な紙芝居のサイズでは無いようであるが、とりあえず画材屋で購入しやすいサイズにした。

出来上がった作品は、最後の授業で発表をおこなった。

実習に持って行くことを、ひとつの目標にしていたので、園に持っていき園児の前で演じた感想を後で聞いた。

「大変喜ばれた」という感想や、「園児がものすごく食いついてきた。」「園児には、難しい」等いろんな感想を言っていただいたとの報告を受けた。

学生による授業評価も「楽しかった」など、良い感想が多かったと思う。

２、ユニバーサルデザインの発展

１年での紙芝居制作を基礎に、「ユニバーサルデザインの紙芝居」の制作指導を保育学科２年生の学生に「ユニバーサルデザイン論」の授業でこころみた。

⑴授業の手順

① 歴史等ユニバーサルデザインについての講義、
② たくさんのユニバーサルデザインがあるので、どんなユニバーサルデザインがあるか調べ、そのなかから紙芝居に出来る題材を考える。
③ 各自がユニバーサルデザインを人に伝えるためのストーリィを考える。
④ 考えたストーリィを簡単なアイディアスケッチにする。
⑤ 画用紙に製作
⑥ 発表

⑵ユニバーサルデザインの概要

障害者や高齢者も含め、誰にでも使いやすい形に初めから設計すること。国立国語研究所は「万人向け設計」と訳している。米国の研究家ロナルド・メイス氏らが80年代以降、７原則とともに提唱。いったん作ったものから障壁を取り除き、誰にでも使いやすい状態に近づける「バリアフリー」に代わる考え方として90年代以降、国内でも急速に普及しつつある。[4)]

ユニバーサルデザインの７原則
①誰にでもできる、使えること
②使う上で自由度が高いこと
③使い方が簡単ですぐにわかること
④必要な情報がすぐにわかること
⑤デザインが原因の危険や事故を防げること
⑥無理な姿勢や余分な体力を使わないこと
⑦近づきやすく空間の大きさも十分なこと

⑶アメリカにおけるユニバーサルデザインの歴史

ユニバーサルデザインは、アメリカからやってきた言葉である。日本においての歴史は、大変浅いと言える。国内でいち早く研究や活用に取り組んでいる川崎和男氏[5)]が新聞紙上[6)]で語っているが、初めて知ったのは、1989年の名古屋で行われた「世界デザイン博」ということであっ

た。まだ18年前である。ユニバーサルデザインのことを理解するには、アメリカにおける歴史を知る必要がある。

第２次世界大戦後、朝鮮戦争やベトナム戦争などで負傷した多くの兵士が帰国。
1940年から50年代にかけてのポリオ（小児麻痺）の大流行。
交通事故や急激な人口増加による障害のある人の急増。

上にあげた３点の事項により障害を持つ人の数が急増した。[7)]
1960年代からアクセス権（利用権）運動が盛んになり、障害のある人たちが一般市民の協力を得て、自ら生活しやすい環境を求めて運動を展開、米政府もこれに応えて法整備を行ってきた。そして1990年、障害をもつ人のための法律（ADA：Americans with Disabilities Act）が制定され一挙にバリアフリーの建物、町づくりが進んだ。[8)]
1980年ＷＨＯ（世界保健機構）は、国際障害者年を世界的な運動にした。10年前の1970年、世界の学識者たちに障害のある人たちに向けた調査報告書の作成を依頼した。これをうけた一人がロナルド・メイスである。
彼が1974年ＷＨＯに提出したものが「バリアフリーデザイン報告書」であり、そこから「ユニバーサルデザイン」という言葉が使われている。[9)]
その後、アメリカにおいて次第に「ユニバーサルデザイン」に関心が集まり、各分野・団体で定義性が一人歩きをはじめる。代表的なものが、教育・産業・社会運動の３つの団体で、それぞれに定義性が生まれた。教育分野では、これから設計あるいはデザインをしていく次の人たちが、どのようにユニバーサルデザインを扱うか、どのような方向性が求められるか。産業では、産業を活性化するためのユニバーサルデザイン。社会運動でも同様。この３つの分野でそれぞれユニバーサルデザインを進めるうえでの主導権をめぐって権力闘争があり、それぞれの指導者がもとめられた。
こうしたとき、1998年第一回の国際ユニバーサルデザイン学会がニューヨークのホフストラ大学で行われ、ロナルド・メイスが提唱者として講演を行った。しかし、その一週間後に彼は亡くなってしまい、これからという時に、ユニバーサルデザインの精神的・理論的な支柱であり、カリスマであるロナルド・メイスをアメリカは失ってしまった。
それぞれの分野で混乱が起き、この混乱したユニバーサルデザインの状態がそのまま、日本にもち込まれてきた形になった。[10)]

ユニバーサルデザインという言葉は、巷にあふれ、テレビCMなどでもよく眼にし、耳にする。ユニバーサルデザインという言葉を付ければ商品は、売れると聞く。
授業においても４～５年前から科目名として眼にするようになった。この取り組みをするきっかけになった、保育学科ユニバーサルデザイン論授業も保育学科発足の１年前担当することを聞かされ１年間の準備期間で書籍をはじめいろんな資料を集めたが、マーク一つにとっても書籍によって違いがあり、『ユニバーサル・デザイン』の著者の川内美彦氏は、著書にロン・メイスと書いているが、ユニバーサルデザインの著者の一人川崎和男氏は、ロナルド・メイスと記してある。あきらかに同一人物である。
川内美彦氏『ユニバーサル・デザイン』は、ユニバーサルとデザインの間に・を挿入しているが河崎和男氏は、ユニバーサルデザインと続けている。本文引用部分は、そのまま引用した。

朝日新聞の生活・安心面で連載された－やさしい秀品－も記事を集め、国際ユニバーサルデザイン協議会というものがあるということを知った。[11]
インターネットで調べたところ「**国際ユニヴァーサルデザイン協議会（IAUD）**[12]は、ユニヴァーサルデザインのさらなる普及と実現を通して、社会の健全な発展とくらし創りを目指す活動体で、「国際ユニヴァーサルデザイン会議2002」の理念と成果を継承して、2003年11月に設立。2006年２月21日現在、140社、７団体、33名が参加する、国内最大のUD推進団体」だと書かれてあった。こちらは、“ユニヴァーサルデザイン”となっている。

⑷子どもにとってのユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインは、いろんな障害を持つ人がいるのと同じ大変幅広い。歩くことに障害をもつ人や、話すことに障害を持つ人、見ることに障害を持つ人、今障害がなくても年齢を重ねると殆どの人が障害を持つ身になる。

また子どもに関するものでは、子どもは、発達段階に沿って成長し、子どもと呼ぶ範囲や期間を一概に判断することは、難しいが、着目すべきは、高齢者だけでなく、子どもたちにも周囲の環境に適応できないことが意外に多い。ことに乳幼児や低年齢層の子どもたちは、成人の保護下にあるとはいえ、常に差別されたり、障害が生じる存在になりやすい。子どもに障害が及ぶ要因としては、社会的に自立していない（保護者の必要性）、客観的判断力の欠如、体格が小さく体力も無い、行動の倫理性不足（行動、言動に理論がかけることがある、記憶が混乱しやすい）、好奇心が強い。などである。[13]

⑸色彩のユニバーサルデザイン

これは、視覚的な情報伝達の多い今の世の中では、注目すべきことである。色覚異常者は、現在318万人。これは、全障害者（国内で約451,6万人）とほぼ同程度に値するということである。日本人男性の約５％女性の0.2％になり、学校で考えると、50人クラスで３人、40人クラスで２人、20人に一人いることになる。病気ではなく遺伝によっておき、男性に多いということで、保育士になったときに出会う可能性は高い。色覚異常者に対する考慮は、十分ではなく、自治体の作成するハザードマップや子どもの使用する教材のように極めて重要な印刷物の中に、色覚正常者には、十分に区別可能であっても色覚異常者にとっては、区別するのが困難な「混同しやすい配色」がある。これは、色覚正常者にとって色覚異常者の見ている色彩世界を想像しにくいことが原因と思われるということである。[14]

しかも以前健康診断のときなどに行われていた、石原式色覚異常検査は、今は、行われていないので、気づかないで過ごす人も多いということである。中内准教授の担当した学生のなかにも、色彩のことを勉強することになって初めて自分が色覚異常だと気がついた学生もいるということであった。

色覚異常は、科学者ドルトン（1766－1844）によって発見された。[15]ドルトンは、生前自分のものの見え方がどうも他の人と違うと考え、死後解剖して調べることを遺言したらしい。結果視細胞の赤細胞が無いことが分かった。

色は、物にあたり、反射または透過した光が人間の眼に入り、眼の奥の網膜にある視細胞で信号に変換されて、視神経を経て大脳に伝えられ、大脳に記憶されている情報と結合して、色として認識される。視細胞は、杆状体と錐状体に分けられ、杆状体は、物体の明暗がおぼろげにわかるくらいの暗いところで、明暗の感覚だけに関与する。一方、錐状体は３種類あり、明

るさや色相、鮮やかさの感覚に関与する。主に短波長に反応するＳ錐状体は、青錐状体とも呼ばれ、中波長に反応するＭ錐状体は、緑錐状体と呼ばれる。長波長に主に反応するＬ錐状体は、赤錐状体と呼ばれる。ドルトンは、このＬ錐状体が無かったということになる。

錐状体を何種類持っているかで、色覚は、三色型から一色型までに分類される。三色型は、錐状体の感度（光に対する応答の程度）によって、正常三色型と異常三色型に分けられる。多数の三色型を正常と呼んでいるために、それ以外の三色型が異常という呼び方にされている。異常３色型は、３種類の錐状体のいずれの感度が低いかで、第一色弱（一般的には赤色弱とも呼ばれている）、第二色弱（一般的には緑色弱とも呼ばれている）、第三色弱（一般的には青黄色弱とも呼ばれている）がある。二色型色覚は、３種類のどれを持っていないかで、第一色覚異常（一般的には赤色盲とも呼ばれている）、第二色覚異常（一般的には緑色盲とも呼ばれている）、第三色覚異常（一般的には青黄色盲とも呼ばれている）、色盲とは、色が見えないのではなく、錐状体が１種類欠損しているために正常三色型が区別できる色が区別できないことを指す。一色型は、錐状体を１種類持つタイプと杆状体だけを持つタイプがある。

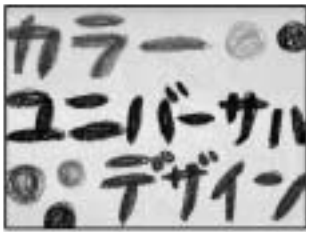
色覚異常は、第一色弱、第一色盲、第二色弱、第二色盲が多く、第三色弱、第三色盲は、非常に少ないが、加齢によって、水晶体の黄濁により青を吸収し第三色覚異常に近づく。[16)]

赤、緑、青の割合で見ているそうであり、赤が見えないと緑も見えにくく、緑が見えないと赤が見えにくい。黒板に書いた赤も文字が見えにくい、表示が見えにくい等の問題がおこる。教師が重要と思って赤で記したことが、伝わっていない場合もあるということであり、表示、標識などの場合は、身に危険を生じる場合も考えられる。[17)]

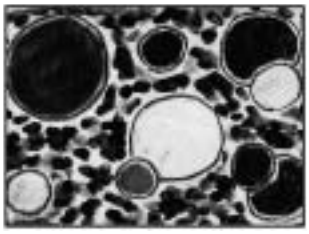
⑹制作された紙芝居

保育学科２年生「ユニバーサルデザイン論」受講者14名が１人１作品を制作。

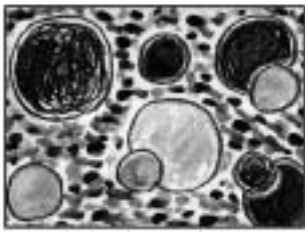
その中で、「カラーユニバーサルデザイン」と題して、色覚異常について制作された紙芝居を紹介する。[20)]



1
カラーユニバーサルデザイン



2
きれいな色がいっぱいならんでいるね。でもね…この色が



3
こんなふうにみえる子もいるんだ

4

なぜかっていうとね…
人間の目の中には
赤くん青くん緑くんの
３人の小人がいるんだ。

5

この３人の小人がみん
なにきれいな色をみせ
てくれているんだよ。

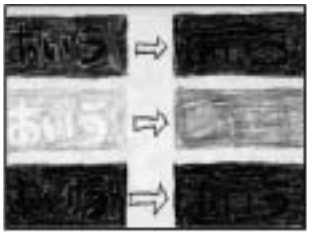
6

その３人のうち１人で
もケガをしちゃうと
おいしそうなイチゴや
りんごさくらんぼが

7

こんなふうに見えてし
まうんだ。ピーマンや
ほうれん草やきゅうり
もこんなふうに見えちゃ

10



8

うの。そんな人たちを
助ける方法があるんだ。
これはみんなにとって
も助かることなんだよ。
みんなこれを見て！
文字が見えにくいと思
わない？それもこんな
ふうにすると…

9

どう？さっきよりも文
字がはっきりみえるで
しょう？障害を持った
人にとっても持ってい
ない人にとってもすて
きだって思えるデザイ
ン。それがカラーユニ
バーサルデザイン。み
んなが笑って暮らせる
のがいちばんだよね。

世の中には、みんなと同じように色が見えていない人がいる。というところから始まり、見えの違いを画面に描き、なぜそうなるかという説明に３人の小人を登場させた。３種類の錐状体を小人に例えたのである。そしてその３人のうちの１人でも怪我をすると違う色に見えてしまうと表現した。

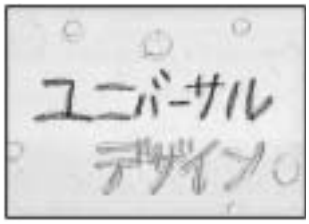
子どもたちに演じることを前提としているからこそ考え付いた、作者のアイディアであり、日ごろ保育について学んでいるからこそ創造できたものであると考える。想像力を駆使してたいへんかわいらしい表現方法を見つけることができた。

そしてユニバーサルデザインの目的を考え、その人たちが見えるようにするには、こんなふ

うにデザインを工夫すればいいよと話を展開している。

一部絵の具は、使われているが殆どがクレヨンで描かれているので、少し見えづらいところはある。きれいに仕上げられ、１年のとき行ったマーブリング技法で作った色紙をコラージュ（貼り絵）するなどの工夫もされている。

もう一人の作品「ユニバーサルデザイン」を紹介する。こちらの文は省略する。[21)]



1

2

3

4

5

6

7

8

目に障害を持つ人や、車椅子の人、階段の上り下りに不自由を感じる人、指がうまく機能しない人等を取り上げている。取り出し口が下にある自動販売機や、靴紐をマジックテープにすること、シャンプーとリンスのボトルに違いを付けたデザインを描いている。

Ⅲ．成果と課題

１、保育園

「カラーユニバーサルデザイン」の紙芝居は、実習のとき５歳児の前で演じられた。

後日報告があり、園児たちは、大変興味深く見てくれたということであった。

紙芝居の内容は理解できていたかどうかはよく分からないが『こんな人もいるんだよ!!』ということを知る良いきっかけになったという感想や、子どもたちなりに理解していたと思うという

言葉をいただいた。

読んだ後に、保育士の方が『ユニバーサルデザインってゆうのはね・・・』とカードの切りかきや、シャンプーとリンスの容器のデザインなど事例を挙げて、子どもたちがより理解しやすいようにフォローを入れてくださったということである。

一番前で聞いていた子どもが、突然「黄色が！」とか言い出したらしいが、その子については、普段障害のある様子は無いということで、紙芝居につられてしまったのかも知れない。

２、デザインを学んでいる学生

生活創造デザインの学生に色彩学演習の授業で「カラーユニバーサルデザイン」の紙芝居の感想を聞くことが出来たので紹介する。生活創造デザインの学生は、色彩学もユニバーサルデザインも学んでいる。

①　見やすい方の色と、濁ってしまった色が、同じ紙の上で比較してあったので、違いがはっきりとわかりました。子どもにはちょっと難しいお話かもしれないけれど、鮮やかな色が使ってあったので、目で見て楽しめるかなと思いました。登場するキャラクターもかわいらしくて、工夫してあるなと思いました。

②　赤、青、緑のどれが１つでも欠けると普段自分たちが、あたりまえだと思っている色には見えないんだと思った。カラーユニバーサルデザインは、目に障害を持っている人は勿論、障害を持っていない人の目にとっても見やすくデザイン的にも好感を持つものなんだと思った。

③　私はいままで、自分の好きな色で、自分の事しか考えずに塗ったり決めたりしてきましたが、視細胞が壊れると、しっかり見えない人もいるので、これからはさまざまな人に見える見やすいデザインをしなくてはいけないと思いました。そのためには、どのようにしたら万人に見える組み合わせになるのか勉強したいと思いました。カラーユニバーサルデザイン、素敵だと思いました。

④　３つの色がそろっていないときれいに見えないから、それぞれ工夫して誰でも、どんな時でもその絵や文字が見えるようにすることはとても大事だと思いました。カラーユニバーサルデザインは多くの人を助けると思うし、とても良いと思いました。身の回りでもカラーユニバーサルデザインがあるか探してみたいと思いました。このデザインをたくさん取り入れていくとすごく良いなと感じました。

⑤　紙芝居は、とてもかわいくキレイに書かれていて、内容もすごく分かりやすかったです。カラーユニバーサルデザインという言葉を始めて聞きました。ユニバーサルデザインのことは授業でやったので分かったのですが、カラーユニバーサルとはなんだろう？と思いました。内容を見て、「なるほどそういうことか」と分かりました。目に障害を持った人にもキレイで分かり易い文字にするということは、とてもいいことだと思います。これからもこのようなちょっとしたことから変えてゆくことが大切なものだと思いました。

⑥　前から「赤」が見えない人がいることは、テレビで見て知っていた。しかし、赤は、目立つ色なのに、障害がある人のために使えなくなるなんて、嫌だなと思っていた。しかし看板などの標識で赤い文字を白でふちどることによって、普通の人も、障害をもつ人にも見えやすくなるという発想は、新しくて感動した。「障害を持つ人のためだけ」のデザインなら普通の人は億劫になってしまう。しかし全ての人が使いやすくなるデザインならば確実に普及する。これからの社会は、よりユニバーサルデザインについて考えていくべきだと思った。

⑦　絵がかわいらしくて子どもでも喜びそうだった。内容も赤・青・緑を小人に例えて子ども

にもわかりやすそう。三原色のうち１色でも欠けると、人物は、物や文字がとても見えにくくなる事がよくわかった。生活するうえで色は、とても重要なものだから、障害のある人は勿論のこと、障害の無い人にとっても配色をしっかり考えなくてはならないと思う。

３、結論

紙芝居の絵に要求される要件[18] として

① 遠目が利くこと。

② 左に抜かれる為の配慮。 紙芝居は、舞台を使い、観客から見て「左に抜かれていくことを前提として絵画化されているので＜左に向かって動く流れ＞をもっていなければならない。

③ 主人公主義。 主人公を中心に展開

④ 背景の処理。 登場人物が明確にわかるように背景処理がなされなければならない。

⑤ 絵が動くために。本来動くことのない絵を動くように感じさせるところに紙芝居の特質があり、登場人物がつねにつぎの場面に対するムーブマンをもって描かれることが大切である。

⑥ 色彩について。色彩は、人の感情を表現する。

⑦ 構図上の変化。映画などで活用されるロング（遠景）、バスト（中景）、アップ（近景）鳥瞰図的視覚、人物の横向き、前向きなど

⑧ 芸術性について

以上のことがあげられているが、それらの要件を満たしているか検討しつつユニバーサルデザインへの発展を検証する。

ユニバーサルデザインの紙芝居をつくるということは、難しかったかもしれない。制作の課程でこれでは、よくわからないと指摘すると、さらに調べ直したり、自分でも描いていくうちに疑問がわいてきて調べたり、参考文献のマーク（UD）を写しているときに文字のデザインが統一されていないのを発見したりしていた。

話の割り振りを考える段階でもどのくらい理解しているかが分かった。

絵にしていく段階で車椅子に乗った人が難しいと言っていた。そういう場合は、コラージュしたり、トレースすることをすすめた。人物の表現が難しく、棒立ちで動きが少ないように思った。全体に書き込み過ぎの人が多く、あれもこれも入れようとして画面が複雑になる場合が多い。紙芝居は、①のように遠目を意識しなければならない、途中友達に持ってもらって離れてみるように進めたが描き始めるとなかなかそれが出来ないようである。下描きの段階でもっと検討する必要があると思った。

しかし先にあげたように意外な発想があり、学生の想像力に驚かされた。他専攻でのアンケートも随分前向きな意見を書いてもらうことが出来た。１つの作品のみ紹介、アンケートをとった。アンケートとしては、不十分であったことを反省する。今後アンケートを充実させ、制作に役立つように検討したい。

この夏、石川県で行われた全国紙芝居祭りに参加した。いろんな分野の紙芝居愛好家が集まり、沢山の紙芝居を見ることが出来た。紙芝居作家の制作課程の話などや、技法の講習会に参加することも出来た。紙芝居コンクールの昨年の１位に選ばれた作品が紹介されていたが、言葉に障害を持つ人を主人公にした話であった。これもユニバーサルデザインの紙芝居と言える

かも知れない。大変感慨深い作品で、世の中に良い影響を与える、十分な可能性があると思われた。

バリアントール[19]を購入することが出来たので、異常のある人は、こういう色に見えると、表現した色を実際に制作者と検証することが出来た。

ユニバーサルデザインの紙芝居への取り組みは、まだ第１回目であるが、制作された紙芝居を学生に見せたとき、演じたときの反応は、充分手ごたえがあったと思った。紙芝居の教材としての可能性がさらに広がったと思った。

保育学科のユニバーサルデザイン論は、昨年度と今年度限りで終了する。短い期間であったので思い切った取り組みをした。大変得ることは多く、今後の教材制作に充分に生かしていくことが出来ると思われる。

〔注〕

1）幼稚園教育要領解説第２章　ねらい及び内容　第２節　各領域に示す事項　４言葉の獲得に関する領域「言葉」⑼絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わう。［内容の取り扱い］⑵絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結びつけたり、想像を巡らせたりする楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。

2）『心をつなぐ紙芝居』安部明子・上地ちづ子・堀尾青史／共編　童心社

3）『ユニバーサルデザインの考え方』監修　梶本久夫　丸善株式会社

4）2005年12月23日（金）朝日新聞　施設整備から「心」「防災」まで）

5）工業デザイナー・名古屋市立大学大学院教授

6）2006年２月１日（水）朝日新聞朝刊　ユニバーサルデザイン課題は

7）『ユニバーサル・デザイン　バリアフリーへの問いかけ』　川内美彦

8）注３）同著

9）注７）同著

10）注３）同著

11）2004年６月９日緊急用簡易担架、2004年６月30日ボールペン、2004年９月８日調理用ナイフ、2004年９月１日可動式ホーム柵、2004年９月29日自動販売機、2004年10月27日トイレ設備、2004年12月１日トイレ設備等

12）www.iaud.net/event/index.php

13）『ユニバーサルデザインの教科書』　監修　中川聰　日経BPデザイン編日経BP社

14）中内茂樹　豊橋技術科学大学情報工学系准教授　名古屋女子大学大学院特別講座より

15）注14同著

16）『カラーコーディネーションの基礎』　東京商工会議所　発売元：中央経済者

17）『ユニバーサルデザインってなに？』 東京大学先端科学技術研究センターバリアフリープロジェクト、注16）同著参照

18）注２）同著

19）中内茂樹准教授らが開発した、眼鏡型、機能性分光フィルタ。色覚異常者が見える色彩を体験することが出来る。

20）伊藤茜　作

21）伊藤友香　作